

平成22年3月期決算の概要

1. 要 約	1ページ
2. 営 業	2
3. 損 益	5
4. 不良債権	7
5. 自己資本	10
6. 今期の業績予想	12
7. やや長い目でみた動向		
(1)収益性	13
(2)健全性	15
(付)営業店一覧	17

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て

1. 要約

○平成21年度の営業環境をみると、欧米先進国の金融危機は収束に向かったが、世界景気は新興国を除き低迷した。福島県経済も、製造業は回復に転じたが、非製造業は総じて低迷を続けた。この間、県内の企業倒産は小康状態で推移した。

○当行の22年3月期決算は黒字に復帰した。即ち、昨年3月期は金融危機の直撃を受け7年ぶりの最終赤字を余儀なくされたが、当期は前年比35億円の大幅増益となり、3億円の最終黒字を確保した。

○これは、不良債権処理費用は若干増加したが、有価証券関係の損益が金融市場の安定化から大幅に改善した(前年▲45億円→当期▲11億円)ことが主因である。一債券5勘定は5億円の益超に転化(前年▲21億円)、株式3勘定も▲16億円(同▲24億円)と改善。

○ただ、当期の営業は、国債等の売買や投信等の窓販は市場環境の好転もありまずまずであったが、主力の貸出が資金需要低迷、貸出競争激化から減少し、貸出金利も低下するなど、低調であった。

○財務内容は引続き改善した。22年3月末の不良債権は196億円と前年比9億円減少し、不良債権比率は4.38%に低下した(前年4.54%)。一方、自己資本比率は9.75%に上昇した(前年9.65%)。

○23年3月期については、不良債権処理費用と株式償却の減少から最終利益15億円と増益を見込んでいる。配当については、1株あたり年1円50銭に増配することを予定している。
—22年3月期は当初予定どおり年1円配当の方針。

22年3月期決算

(単位:百万円)

		22年3月期	21年3月期	前年比
単 体	経常収益	15,823	14,985	838
	経常利益	85	▲ 3,934	4,019
	純 利 益	300	▲ 3,286	3,586
連 結	経常収益	18,320	17,606	714
	経常利益	241	▲ 3,796	4,037
	純 利 益	388	▲ 3,285	3,673

2. 営業

(1) 預金

○預金は21年度中30億円減少し、22年3月末の残高は5,699億円、前年比0.5%減となった。

○預金者別にみると、一般法人預金が増加した一方、個人預金は減少した。

○期間別にみると、流動性預金が増加した一方、定期性預金は減少した。

21年度の預金動向

(単位:億円)

		増 減		22/3月末残高	
			前 年		前年比%
預金者別	個人	▲ 39	2	4,581	▲ 0.9
	一般法人	13	▲ 21	892	1.5
	地公体等	▲ 3	▲ 22	225	▲ 1.7
期間別	流動性	63	▲ 28	1,968	3.3
	定期性	▲ 93	▲ 13	3,730	▲ 2.4
合 計		▲ 30	▲ 41	5,699	▲ 0.5

(2) 窓販

○21年度の窓販は下期に入り回復に転じた。とくに投信は69億円と前年(42億円)をかなり上回った。

○3月末の預り資産残高は、投信の市況回復もあって、738億円と前年を12.5%上回った。

21年度の窓販動向

(単位:億円)

		窓 販 額		22/3月末預り資産残高	
			前 年		前年比%
投	信	69	42	389	24.2
保	険	22	18	270	1.8
公	共 債	8	11	78	2.6
合 計		100	72	738	12.5

(3) 貸出

- 貸出は21年度中41億円減少し、3月末の残高は4,458億円、前年比0.9%減となった。
- 3月末の貸出平均金利(残高ベース)は2.362%と資金需要の低迷、銀行間の競争激化を映じ、前年比0.156%ポイント低下した。
- 貸出内容をみると、住宅ローンと地方公共団体向けは増加したが、事業性は減少した。
- 中小企業向け貸出は、21年度中80億円減少し、3月末の残高は1,942億円、前年比4.0%減となった。
これは、企業が景気の見通し難から設備投資等に慎重な構えを崩していないほか、手許流動性が比較的高いこともあって、銀行に対する借入需要が低迷したことによるとみられる。
- なお、21年度の預貸率は末残78.2%(前年78.5%)、平残77.0%(同76.6%)となった。

21年度の貸出動向

(単位:億円)

	増 減		22/3月末残高	
		前年		前年比%
消費性	37	73	1,419	2.7
住宅ローン	46	87	1,273	3.8
事業性	▲ 63	▲ 62	2,540	▲ 2.4
うち保証協会	2	60	510	0.5
地公体	55	19	347	19.1
その他とも合計	▲ 41	73	4,458	▲ 0.9

事業性貸出の動向

(単位:億円)

	増 減		残 高		残高前年比%	
		うち中小企業		うち中小企業		うち中小企業
19年度	▲ 309	▲ 264	2,666	2,054	▲ 10.4	▲ 11.4
20年度	▲ 62	▲ 31	2,603	2,023	▲ 2.3	▲ 1.5
21年度	▲ 63	▲ 80	2,540	1,942	▲ 2.4	▲ 4.0
上期	▲ 56	▲ 44	2,547	1,978	▲ 2.1	▲ 2.2
下期	▲ 7	▲ 36	2,540	1,942	▲ 2.4	▲ 4.0

(注) 中小企業貸出には個人企業向け事業性貸出を含む。

(4) 有価証券

- 有価証券は債券を中心に21年度中51億円増加し、3月末の残高は1,015億円、前年比5.3%増となった。
- 保有債券の中では事業債が増加。債券のデュレーション(残存期間)は2.0年と若干短期化(前年2.3年)。
- 保有株式のうち、持合上場株は銀行株を中心に減少(3月末21銘柄 43億円、前年比5銘柄5億円の減少)。
- 3月末の「その他有価証券」の含み損は7億円の減少(前年35億円)。
- なお、21年度の預証率は末残17.8%(前年16.8%)、平残19.2%(同19.2%)となった。

「その他有価証券」の含み損益 (単位:百万円)

	合計	債券	株式	投信等
20/3月末	▲ 4,621	▲ 1,371	▲ 2,083	▲ 1,166
21/3月末	▲ 3,532	▲ 114	▲ 1,438	▲ 1,979
22/3月末	▲ 718	381	▲ 234	▲ 865
最近(4月末)	▲ 174	555	30	▲ 760

21年度の有価証券動向

(単位:億円)

	増 減		22/3月末残高	
		前年		前年比%
債券	49	▲ 90	890	5.8
株式	0	▲ 15	65	▲ 0.1
投信等	2	▲ 28	59	3.8
合計	51	▲ 133	1,015	5.3

保有債券の内訳

(単位:億円)

		21年度中増減		22/3月末残高	
			前年		前年比%
発行者別	国内債	35	▲ 53	713	5.2
	うち 国債	32	▲ 105	508	6.9
	事業債	78	5	111	3.3倍
	外国債	13	▲ 36	176	8.4
残存期間別	1年未満	▲ 58	▲ 119	156	▲ 27.1
	1年以上5年未満	134	▲ 33	447	42.7
	5年以上10年未満	70	52	174	67.4
	10年以上	▲ 97	10	111	▲ 46.5
合計		49	▲ 90	890	5.8

(単位:百万円)

3. 損益

(1) 業務純益

○**実質業務純益**(一般貸倒引当金を除く業務純益)は44億円と前年を29億円上回った。これは、市場金利低下の中、債券売却益などの債券5勘定が大幅に改善した(前年▲21億円→当期5億円)ことが主因。

○**相対型営業の成果を示すコア業務純益**(債券5勘定を除く実質業務純益)も38億円と前年を1億円上回った。

○ただ、コア業務純益の基調は不芳。

- ・貸出金利息は前年比6億円の減少。貸出利回りの低下(2.43%、同0.14%ポイント低下)が主因だが、貸出平残の減少(4,346億円、同36億円減)も影響。
- ・有価証券利息配当金は前年比2億円の増加。
- ・預金利息は前年比5億円の減少。預金利回りの低下(0.27%、前年比0.10%ポイント低下)が主因。
- ・窓販手数料は前年比微増。
- ・その他業務収益は貸出売却益から前年比4億円の増加。
- ・営業経費は前年比3億円の増加。店舗リニューアル、事務機器の更新に伴う物件費の増加による。

	22/3月期	21/3月期	前年比
資金利益	10,348	10,223	125
貸出金利息	10,429	11,065	▲ 636
有価証券利息配当金	1,574	1,296	278
預金利息	1,549	2,138	▲ 589
役務取引等利益	807	916	▲ 109
受入手数料	1,808	1,907	▲ 99
うち窓販手数料	445	407	38
支払手数料	1,001	991	10
債券5勘定※ A	583	▲ 2,174	2,757
うち売却損益	893	61	832
債券償却	297	1,977	▲ 1,680
その他の業務収益	466	0	466
営業経費	7,736	7,430	306
人件費	3,438	3,545	▲ 107
物件費	3,754	3,397	357
実質業務純益 B	4,479	1,549	2,930
コア業務純益 B-A	3,896	3,724	172

※債券5勘定＝国債等債券売却益、償還益、売却損、償還損、償却

(2) 純利益

(単位:百万円)

○**経常利益**は85百万円と前年を40億円上回った。

これは実質業務純益が増加したうえ、株式の償却が減少した(前年24億円→当期16億円)ことによる。

—株式償却の問題は、市況の極端な悪化がない限り、当期で一段落と思われる。

○不良債権処理費用は28億円と前年比1億円の増加。

当行の不良債権処理費用は不良債権残高の減少から基調的には減少過程にあるが、当期は大口倒産の影響で若干の増加。

(注)穴吹工務店が昨年11月会社更生法を申請(当行の同社向け債権19億円)。回収見込額が不明なため一般貸倒引当金を含め約25億円を引当処理。

○この結果、最終損益である**純利益**は、償却済債権の回収4億円などを加え、3億円と前年(▲32億円)を35億円上回り、2年ぶりに黒字に復帰した。

	22/3月期	21/3月期	前年比
実質業務純益	4,479	1,549	2,930
不良債権処理費用	2,892	2,712	180
貸倒引当金繰入(△戻入)	1,307	△ 261	1,568
貸出金償却・売却損	1,584	2,974	▲ 1,390
株式3勘定※	▲ 1,632	▲ 2,447	815
うち売却損益	13	20	▲ 7
株式償却	1,645	2,468	▲ 823
経常利益	85	▲ 3,934	4,019
償却債権取立益	434	233	201
固定資産処分損	65	28	37
固定資産減損損失	131	15	116
純利益	300	▲ 3,286	3,586

※株式3勘定＝株式等売却益、売却損、償却

4. 不良債権

○22年3月末の不良債権(金融再生法開示基準)は196億円と前年比9億円の減少。

－破産更生等債権は増加したが、危険債権と要管理債権が減少。

○与信残高は4,488億円と前年比44億円の減少。

○この結果、3月末の不良債権比率は4.38%と前年比0.16%ポイント低下した。

(単位:億円)

	22/3月末	21/3月末	前年比
不良債権(A)	196	205	▲9
破産・更生等債権	116	105	▲11
危険債権	74	88	▲14
要管理債権	6	11	▲5
正常債権	4,291	4,326	▲35
総与信(B)	4,488	4,532	▲44
不良債権比率(A/B)	4.38%	4.54%	▲0.16%

○不良債権比率は低下傾向を続けているが、低下テンポは近年鈍化している(15ページ参照)。

また、不良債権から正常債権へのランクアップが少ない一方、逆にランクダウンの動きは高水準を続けており、中小企業の業況は依然厳しいように窺われる。

不良債権の増減要因

(単位:億円)

	22/3月期	21/3月期	20/3月期
正常債権への 上方シフト	▲14	▲39	▲16
正常債権からの 下方シフト	65	65	74
償却	▲20	▲50	▲43
売却	0	0	▲10
返済・回収	▲39	▲38	▲45
合計	▲9	▲62	▲40

○業種別の不良債権比率をみると、製造業が低下した一方、建設業、不動産業、サービス業は依然高水準となっている。

業種別の不良債権動向(22年3月末)

(単位:百万円、%)

業種	貸出残高		リスク管理債権残高		不良債権比率	
	A	前年比	B	前年比	B/A	前年比
製造業	34,147	▲ 1,234	1,362	▲ 1,082	3.9	▲ 3.5
建設業	27,684	▲ 4,424	2,850	▲ 19	10.2	1.4
情報通信業	2,881	▲ 13	167	▲ 3	5.7	▲ 0.2
運輸業・郵便業	15,414	▲ 2,567	272	▲ 326	1.7	▲ 2.9
卸売業・小売業	43,249	▲ 2,296	2,767	▲ 815	6.3	▲ 2.4
金融業・保険業	22,689	▲ 11,959	21	▲ 13	0.0	0.0
不動産業・物品賃貸業	45,602	▲ 14,222	4,810	▲ 2,077	10.5	1.8
各種サービス業	57,823	▲ 6,220	4,966	▲ 451	8.5	0.1
国・地方公共団体	39,277	▲ 4,580	-	-	-	-
個人その他	157,118	▲ 6,414	2,327	▲ 279	1.4	▲ 0.1
合計	445,884	▲ 4,105	19,546	▲ 869	4.3	▲ 0.2

(注)日本標準産業分類の改訂に伴い、21年6月末から業種の分類を変更しており、不動産業・物品賃貸業と各種サービス業については前年と連続しない。

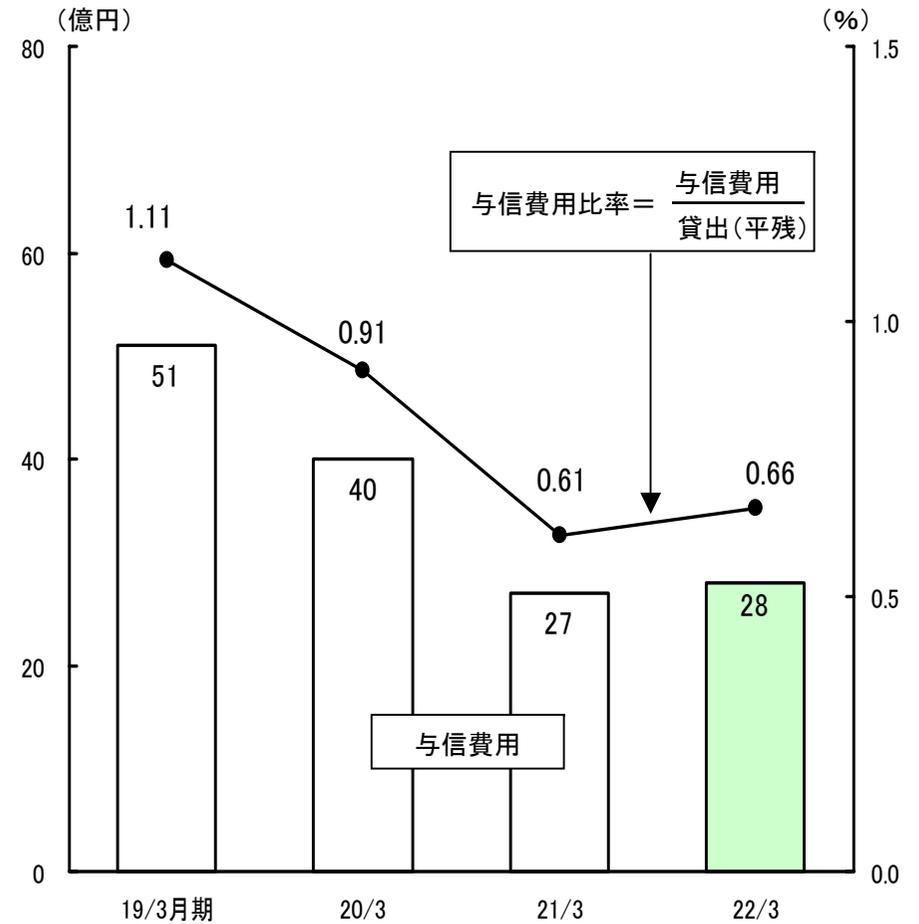
○不良債権に対する担保・保証、引当金による保全状況をみると、22年3月末の保全率は91.1%に達しており、不良債権に対する備えは十分。

不良債権の保全状況(22年3月末)

(単位:億円)

	不良債権額 A	保全額 B	担保・保証		保全率 % B/A
			担保・保証	引当金	
破産・更生等債権	116	116	91	25	100.0
危険債権	74	59	40	18	79.8
要管理債権	6	3	3	0	62.3
合計	196	179	134	44	91.1

○22年3月期の与信費用比率は0.66%(前年0.61%)と依然高水準。



(注)与信費用=貸倒引当金繰入額+貸出金償却+債権売却損

5. 自己資本

○22年3月末の自己資本(BIS国内基準)は311億円と前年比2億円の減少。これは劣後債の減少によるもので、中核的自己資本であるTier I は内部留保の増加から242億円と前年比2億円の増加。

(注)劣後債については、40億円を期限前償還する一方、37億円を発行(22年3月)。

○リスクアセットは貸出の減少から57億円の減少。

○この結果、3月末の自己資本比率は9.75%(前年9.65%)、Tier I 比率は7.60%(同7.40%)に上昇。

○なお、「その他有価証券」の含み損を考慮した「実質自己資本比率」は9.52%(前年8.56%)、「実質Tier I 比率」は7.37%(同6.31%)と大幅な上昇。

(参考) 連結ベース

(単位: %)

	22/3月末	21/3月末
自己資本比率	9.72	9.59
Tier I 比率	7.58	7.35
実質自己資本比率	9.50	8.51
実質Tier I 比率	7.35	6.27

(単位: 億円、%)

	22/3月末	21/3月末	前年比
自己資本 A	311	313	▲ 2
Tier I (中核的資本) B	242	240	▲ 2
Tier II (補完的資本)	69	73	▲ 3
うち劣後債	37	40	▲ 3
控除項目	▲ 1	-	▲ 1
リスクアセット C	3,189	3,246	▲ 57
信用リスクアセット	2,965	3,008	▲ 43
うち貸出	2,480	2,583	▲ 103
オペレーショナルリスクアセット	223	237	▲ 14
自己資本比率 A/C	9.75	9.65	0.10
Tier I 比率 B/C	7.60	7.40	0.20

(単位: %)

実質自己資本比率	9.52	8.56	0.96
実質Tier I 比率	7.37	6.31	1.06

○22年3月末の統合リスク量は117億円と前年比44億円の減少。

—金融市場の安定化から市場リスクと金利リスクが大幅に減少。

○自己資本の余裕度をみると、Tier I（242億円）に対し統合リスク量は117億円にとどまっており、貸出など営業活動を展開していくうえで自己資本上の制約は現状ない。

○アウトライヤー規制における3月末の金利リスク量は52億円（前年62億円）と自己資本の16.8%（同19.9%）に収まっている。

（注）統合リスク量＝信用リスク、市場リスク、金利リスク、オペレーショナルリスクの単純合計。

・信用リスク、市場リスク、金利リスクはVaR（一定期間に一定確率で被り得る最大損失額）による。

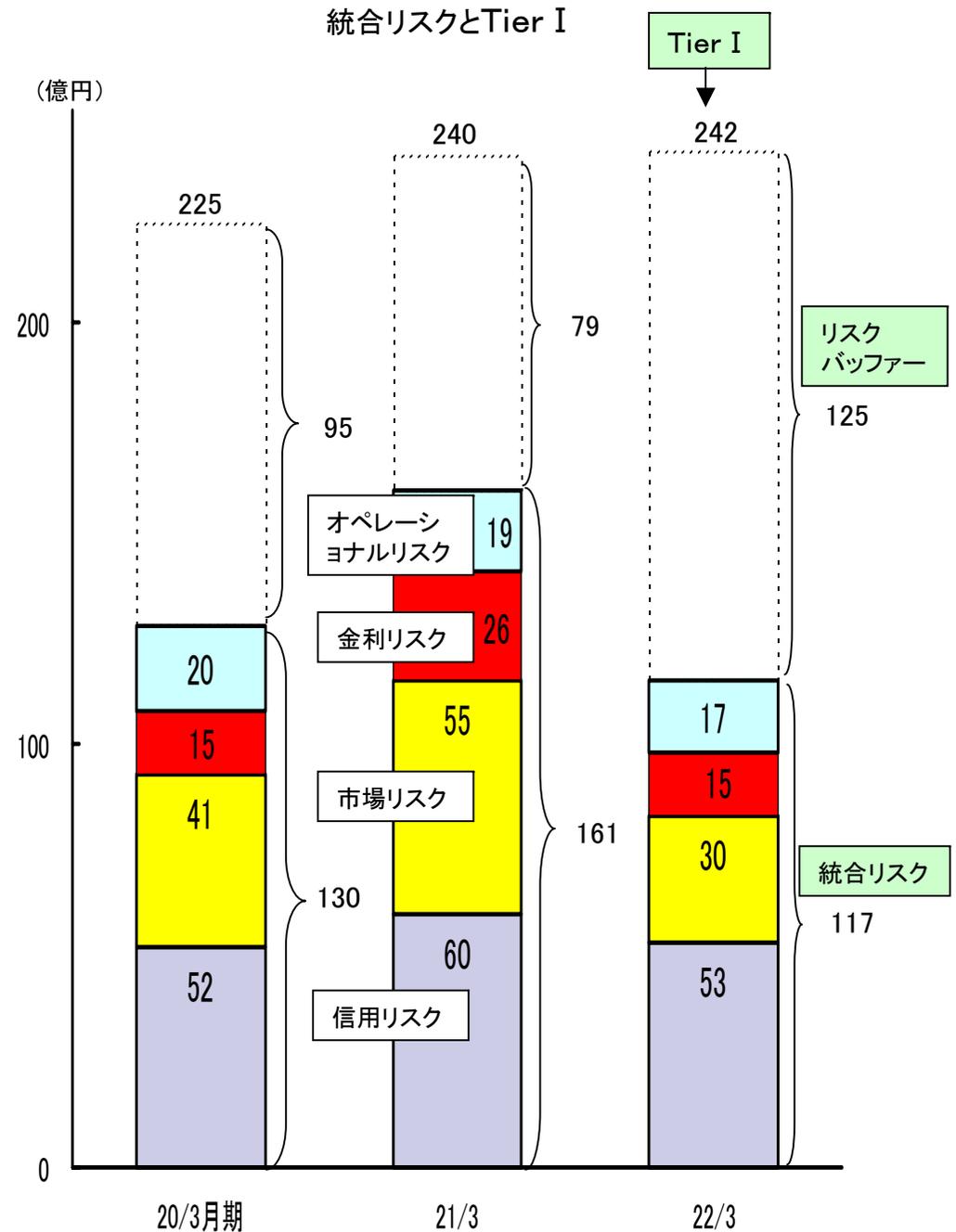
VaRの計測方法—観測期間1年、信頼水準99%、保有期間は次のとおり。

信用リスク：1年（240日）

市場リスク：政策投資株式・満期保有目的債券・仕組ローン各120日
 売買目的有価証券10日、その他有価証券60日

金利リスク：半年（120日）

・オペレーショナルリスクは基礎的手法（年間業務粗利益の15%）による。



6. 今期の業績予想

○23年3月期については、純利益15億円程度(前期3億円)と増益を予想している。

－不良債権処理費用と株式償却が減少の見込み。

－23年3月の株価は22年4月末で横ばいと前提。

○23年3月末の不良債権比率は4%程度、自己資本比率は10%程度とそれぞれ一段の改善を見込んでいる。

○こうした業績予想を前提に、23年3月期の配当は1株当たり年1円50銭に増配することを予定している。
－22年3月期については当初予定どおり年1円配当の方針。

(参考)22年9月中間期予想

		22/9月期 予想	前年同期 実績
単 体	経常収益	7,000	7,446
	経常利益	600	162
	純利益	700	322
連 結	経常収益	8,200	8,871
	経常利益	600	329
	純利益	700	454

23年3月期予想

(損益)

(単位:百万円)

		21/3月期 実績	22/3月期 実績	23/3月期 予想
単 体	経常収益	14,985	15,823	14,000
	経常利益	▲ 3,934	85	1,200
	純利益	▲ 3,286	300	1,500
連 結	経常収益	17,606	18,320	16,500
	経常利益	▲ 3,796	241	1,200
	純利益	▲ 3,285	388	1,500

(財務内容)

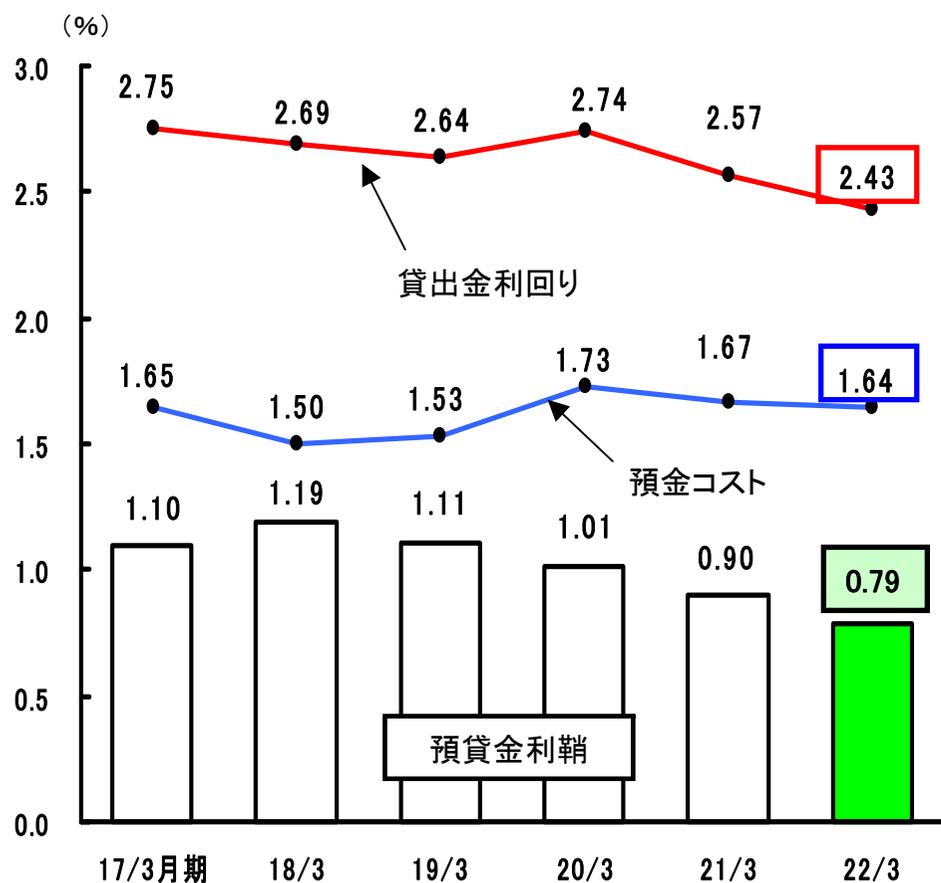
(単位:%)

		21/3月期 実績	22/3月期 実績	23/3月期 予想
単 体	不良債権比率	4.54	4.38	4%程度
	自己資本比率	9.65	9.75	10%程度
連 結	不良債権比率			
	自己資本比率	9.59	9.72	10%程度

7. やや長い目でみた動向

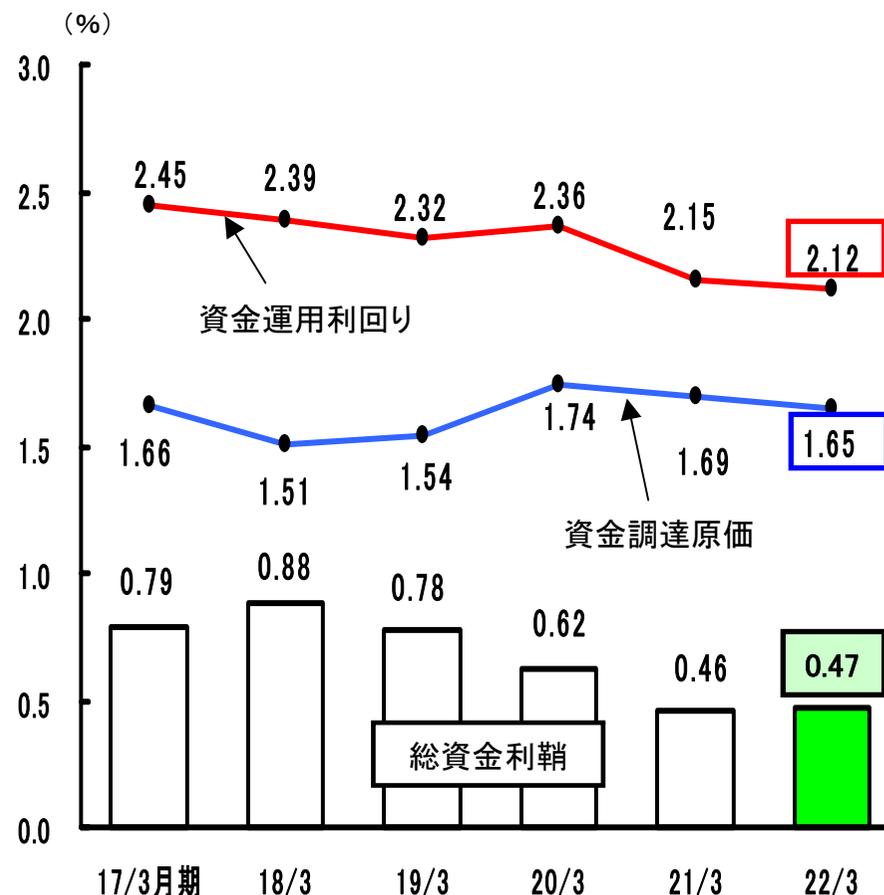
(1) 収益性

① 利鞘は貸出金利の低下から低下傾向。



(参考) 預金利回り

18/3月期	19/3	20/3	21/3	22/3
0.08	0.15	0.33	0.37	0.27

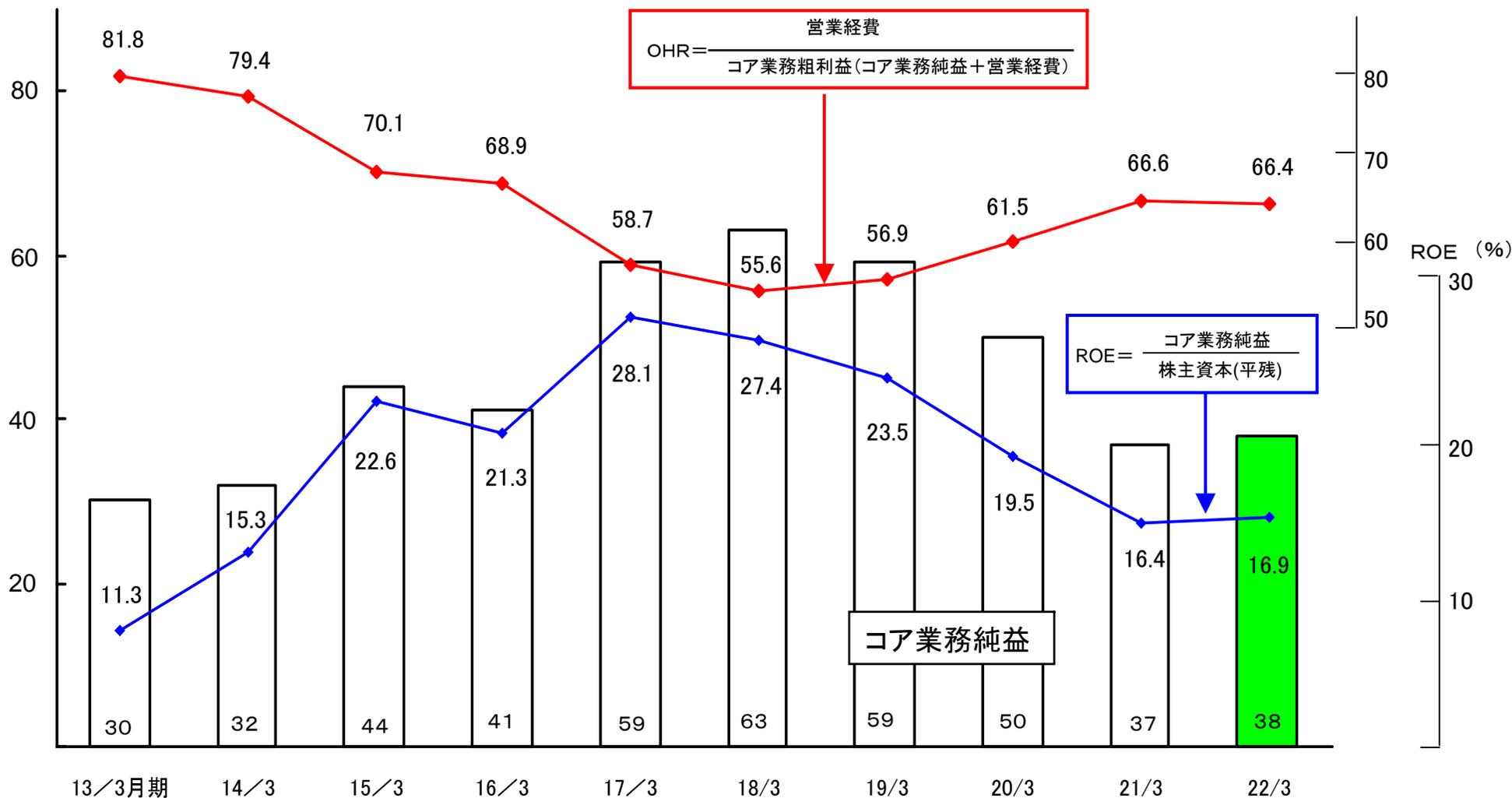


(参考) 有価証券利回り

18/3月期	19/3	20/3	21/3	22/3
1.25	1.32	1.39	1.17	1.45

② コア業務純益は近年減少。 ROE(株主資本利益率)、OHR(営業経費率)も近年悪化。

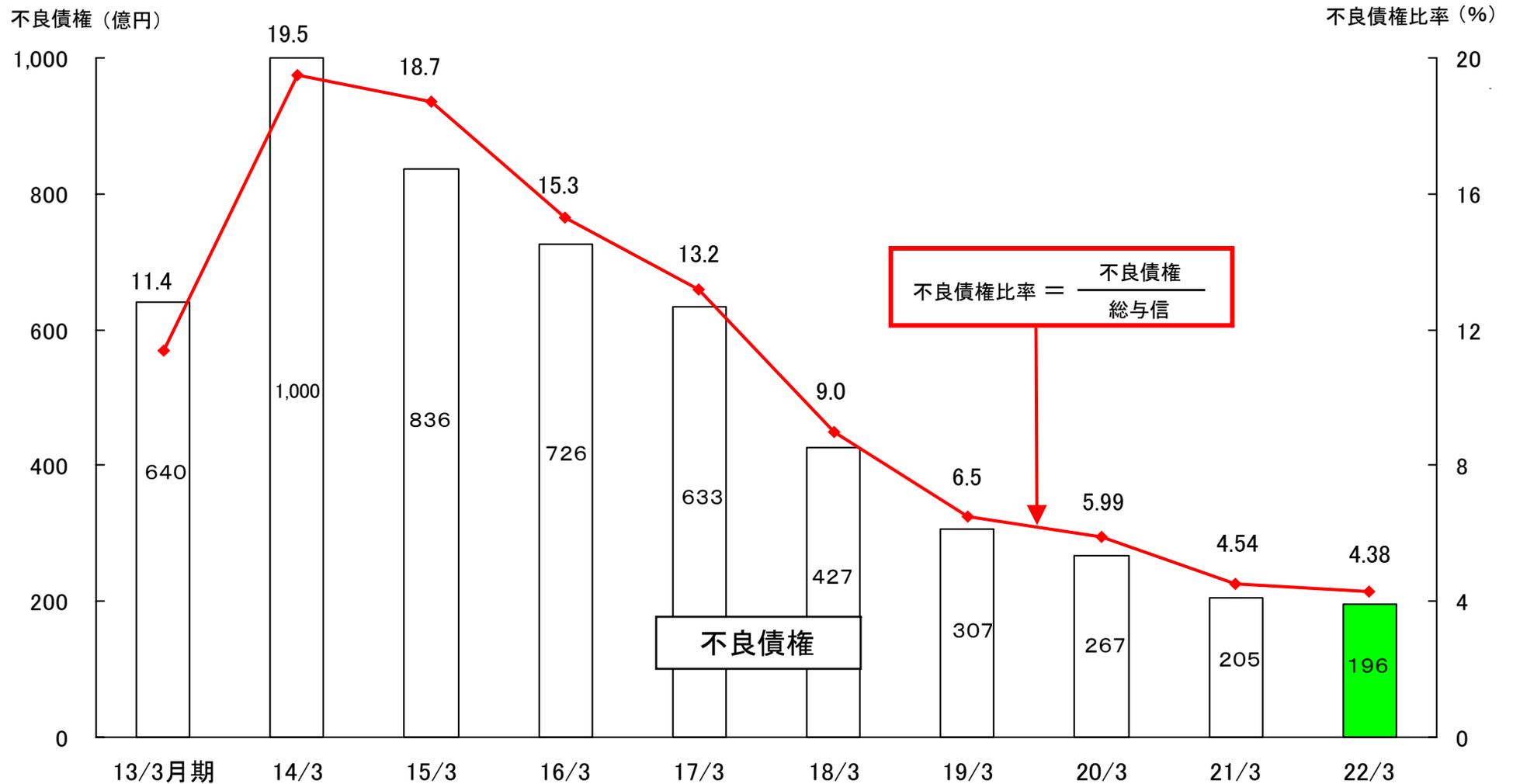
コア業務純益 (億円)



(2) 健全性

① 不良債権

- ・不良債権は大幅に減少(ピーク13年9月末1,043億円→22年3月末196億円)。
- ・不良債権比率も大幅に低下(ピーク14年9月末19.6%→22年3月末4.38%)。

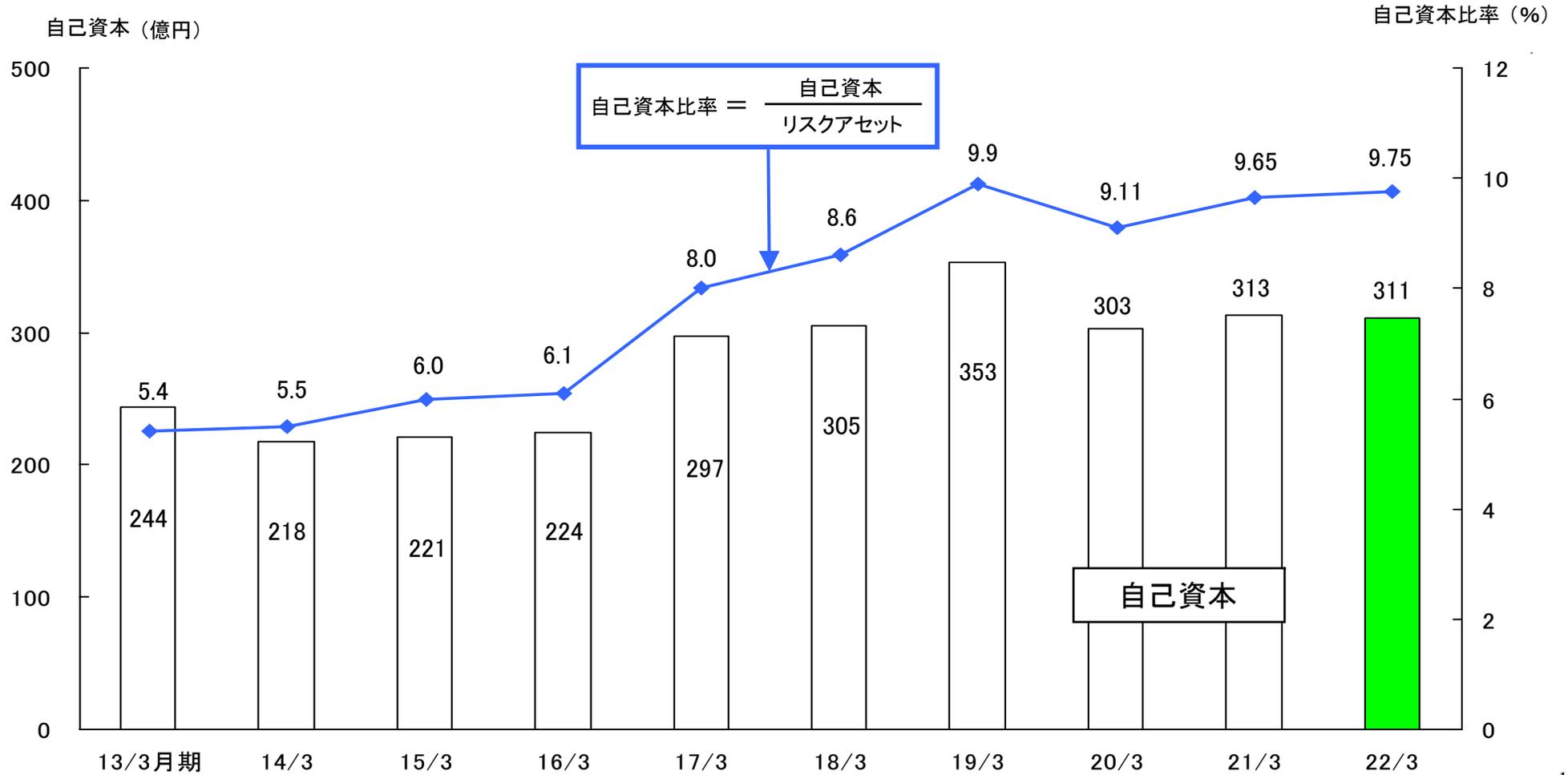


② 自己資本

- ・自己資本は外部調達、利益の内部留保から着実に増加。
- ・つれて自己資本比率も着実に上昇。

(参考) 資本の外部調達

14年3月	第三者割当増資	146億円
16年9月	新株予約権付社債	20億円
17年3月	劣後社債	45億円
18年9月	新株予約権付社債	45億円
22年3月	劣後社債	37億円



(付) 営業店一覧(22年5月14日現在)

	店舗名	営業店長	電話番号	
県北	本店営業部	常務取締役 和知 昭	024-525-2911	
	渡利出張所	安田 行雄	024-523-3341	
	山下町出張所	佐藤 哲也	024-531-5311	
	泉出張所	長嶺 公木	024-559-1231	
	福島西支店	渡辺 吉信	024-534-7158	
	福島北支店	本名 勝幸	024-553-5561	
	福島南支店	葛西 宏一	024-545-3111	
	蓬萊出張所	岩本 学	024-548-6331	
	笹谷支店	新田 孝喜	024-558-1135	
	岡部支店	草野 真之	024-531-8081	
	大森支店	和泉 好宏	024-546-5911	
	八島田支店	熊坂 久幸	024-558-6001	
	飯坂支店	芳賀 良栄	024-542-3251	
	保原支店	今村 正弘	024-575-3101	
	桑折支店	末永 秀一	024-582-2207	
	川俣支店	林 昭夫	024-565-2211	
	二本松支店	大井川 恵一	0243-22-2151	
	県中	本宮支店	佐藤 善範	0243-34-3161
		郡山営業部	取締役副社長 鎌田 秀美	024-932-1500
さくら通出張所		遠藤 秀典	024-931-5670	
芳賀支店		丹野 眞宏	024-956-0188	
開成支店		鈴木 重晴	024-921-0301	
大槻支店		織内 康司	024-951-8500	
富久山支店		前野 博之	024-934-1620	
菜根支店		山本 利幸	024-923-4500	
安積支店		小野 英典	024-945-5530	
荒井支店		鈴木 岳伯	024-946-1850	
富田支店		佐々木 茂雄	024-952-3922	
須賀川支店	稲村 修	0248-75-2158		
須賀川西支店	宮崎 浩行	0248-72-8855		

	店舗名	営業店長	電話番号
県南	矢吹支店	眞壁 孝文	0248-42-3911
	白河支店	吉田 直人	0248-24-1311
	船引支店	熊坂 光幸	0247-82-1151
	石川支店	安齋 健造	0247-26-2127
	棚倉支店	後藤 秀之	0247-33-2211
	矢祭支店	手代木 巧成	0247-46-3141
会津	会津支店	佐藤 明則	0242-26-6311
	門田支店	半澤 健一	0242-28-5131
	猪苗代支店	黒須 正雄	0242-62-2054
	喜多方支店	山口 啓二	0241-22-2163
浜通り	相馬支店	上野 芳秀	0244-35-2161
	原町支店	小石沢 好勝	0244-23-2158
	浪江支店	小貫 博市	0240-34-3181
	富岡支店	新田 廣行	0240-22-2161
	四倉支店	田中 真一	0246-32-4151
	平支店	鈴木 弘志	0246-23-3331
	平東出張所	佐藤 善典	0246-21-5411
	内郷支店	伊藤 伸一	0246-26-2061
	湯本支店	山崎 光	0246-42-2138
	小名浜支店	山崎 英夫	0246-53-4101
植田支店	富山 浩明	0246-62-2151	
県外	仙台支店	佐藤 健市	022-223-8191
	黒磯支店	長谷川 正人	0287-62-1625
	水戸支店	神谷 義晴	029-224-5606
	大宮支店	星 昌吾	048-643-2830

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。

～お問合わせ先～

株式会社福島銀行 経営企画室長 渡辺敦雄

広報担当 井上大樹

同 須藤祐介

TEL: 024-525-2525 (代)

FAX: 024-536-5338

E-Mail: keiki@fukushimabank.co.jp

URL: <http://www.fukushimabank.co.jp>

以 上